壁掛形据付説明書（ワイヤレス）

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
リモコン及び電気工事の方法は、裏面の電気工事の説明書をご覧ください。
室外ユニットの据付方法及び冷媒配管工事方法は、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。
電気ヒータは取り付けられません。

PHA012D005 A

安全上の注意

●据え付け工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。
●ここに示した注意事項は、 ⚠警告 、 ⚠注意 に区分していますが、誤った据え付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいものを特に ⚠警告 の欄にまとめて記載しています。しかし、 ⚠注意 の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●据え付け工事完了後、試験運転を行い異常がないことを確認するとともに取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。また、この据付説明書は、取扱説明書と共にお客様で保管頂くように依頼してください。

⚠ 警　告

●据え付けは、お買上げの販売店又は専門業者に依頼してください。ご自分で据え付け工事をされ不備があると水漏れや感電、火災の原因になります。
●据え付け工事はこの据え付け説明書に従って確実に行ってください。据え付けに不備があると、水漏れや感電、火災の原因になります。
●冷媒ガスが漏れた時、室内の冷媒濃度が限界濃度を超える恐れのある場合は、対策が必要です。限界濃度を超えない対策については販売店と相談して据え付けてください。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故につながる恐れがあります。
●据え付けは、重量に十分耐える所に確実に行ってください。強度が不足している場合は、ユニットの落下により、ケガの原因になります。
●台風などの強風、地震に備え、所定の据え付け工事を行ってください。据え付け工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になることがあります。
●電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規定」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。
●配線は所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定してください。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災の原因になります。
●配線は、浮き上がらないように整形し、リッド・サービスパネルを確実に取り付けてください。取り付けが不完全な場合は、発熱、火災の原因になります。
●エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気等を混入させないでください。空気等が混入すると、冷凍サイクル内が異常に高圧になり破裂、ケガの原因になります。
●設置工事部品は、必ず付属部品および指定の部品を御使用ください。当社指定品を使用しない場合は、水漏れや感電、火災、冷媒漏れの原因になります。
●作業中に冷媒ガスが漏れた場合は換気をしてください。
冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
●設備工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認してください。
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター、ストーブ、コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

⚠ 注　意

●アースを行ってください。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は感電の原因になることがあります。
●設置場所によっては漏電ブレーカーの取り付けが必要です。漏電ブレーカーが取付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。
●可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わないでください。
万一ガスが漏れてユニットの周囲に溜まると、発火の原因になることがあります。
●ドレン配管は、据付説明書に従って確実に排水するよう配管し、結露が生じないよう保温してください。配管工事に不備があると、水漏れし、家財等を濡らす原因になることがあります。

〈ご注意〉
○下記に示すような場所での据付、使用は避けてください。
●油の飛沫や蒸気の多い所（例：調理場、機械工場）熱交換器の性能低下・腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。
●腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある場所。
熱交の腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。又、可燃性ガスは発火の原因になることがあります。
●病院などの電磁波を発生する機器の近く、高周波の発生する機器の近く。ノイズ発生によるコントローラの誤動作の原因となります。
●潮風が当る所。（海浜地区）外板、熱交の腐食の原因となります。

○下記に据付け上の注意事項を示しますので必ずお守りください。
●直射日光の当たる所にリモコンを設置しないでください。リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
●アースを取ってください。アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、誤動作や感電の原因になることがあります。
●漏電ブレーカの取り付けが必要です。漏電ブレーカが取り付けられていないと感電や火災の原因となることがあります。
●エアコンの重量に十分耐えられる場所に確実に設置してください。据付けに不備があるとユニットの落下によるケガや振動運転音増大の原因になります。
●冷媒ガスが漏れた時、室内の冷媒濃度が限界濃度（0.3kg／m³）を越える恐れのある場合は、窒息防止のために隣室との間の開口部やガス漏れ検知警報と連動する機械換気設置等の取付けが必要となりますので、お買上げの販売店にご相談ください。

〈おねがい事項〉
○取扱説明書を見ながら、お客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた（特にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法）をご指導ください。
○長時間使用しない時は、電源スイッチを切るようにお客様にご指導ください。
電源スイッチを入れたままにしておきますと、クランクケースヒータ等に通電されエアコンを使用しなくても電力を消費することになります。

据付のまえに

○据付はこの据付説明書に従って正しく行なってください。
○工事計画にあっておりますか。

機種・電源仕様
確認してください
配管・配線・小物部品

付属品

〈付属品〉※本体の上にテープで貼り付けられています。

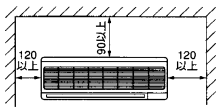
①	リモコン		1個	
②	リモコン据付用			
1	リモコンホルダー		1個	
2	リモコン用電池		2個	UM−4
3	木ネジ		2個	リモコンホルダー用 φ3.5×16ℓ

③ 据付関係

1	据付板		1個	室内ユニット裏面に付属
2	タッピンネジ		8個	据付板用　径4mm×長さ25mm
3	インシュレーション		1個	断熱用　50mm×160mm

据付場所の選定

（室内機）**据付スペース**



お願い　●点検、メンテナンス作業のためスペースを確保してください。

お願い　据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。

●冷風または温風が十分行きわたる所。
●室外への配管、配線のしやすい所。
●ドレン排水が完全にできる所。
●据付部の壁が強固である所。
●吸込口、吹出口に風の障害のない所。
●直射日光のあたらない所。
●油の飛沫や蒸気の多い所はさけてください。
●高周波を発生する機械がある所は、さけてください。
●受信部に強い照明光が当たる所は、さけてください。
●裏面の「ワイヤレスリモコンの操作距離」の項を参照し、ワイヤレスリモコンで確実に操作できる所を選んでください。
●映像の乱れや雑音防止のためエアコン本体とリモコンはテレビやラジオなどから1m以上離してください。
（1m以上離しても雑音が入る場合はテレビ、ラジオなど雑音の入らない場所まで離してください。）

工事完了後、これだけは再チェック願います。

チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外のユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下・振動・騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない・暖まらない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない・暖まらない	

ユニットの搬入、据付

搬　入

お願い

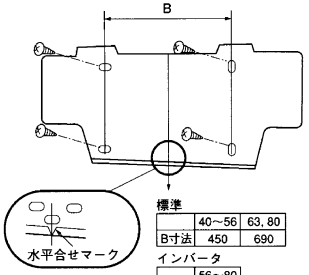
- ●搬入時は、できるだけ据付現場の近くまで梱包のまま搬入してください。
- ●やむをえず解梱して搬入する場合は、ナイロンスリングなどで包みユニットを傷つけないように注意してください。
  注）吹出ルーバ部分を持たないでください。
- ●解梱後ユニットを置く場合は、必ずユニットの前面側を上にしておいてください。

据付板の取付け

お願い

- ●室内ユニットは重量が約11kg（標準63, 80及びインバータは13.5kg）あります。したがって据付けようとする場所がそのユニットの重量に耐えられるか検討し、危険と思われましたら板あるいは桁等で補強して据付作業を行ってください。また、このユニットを直接壁面等に据付けることはできません。いずれの場所に据付ける場合にも**必ず付属の据付板を使って据付けてください。**

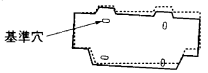
○壁内の構造物（間柱など）をさがして水平を確認してから強固に取付けてください。



標準		
	40～56	63, 80
B寸法	450	690

インバータ	
	56～80
B寸法	690

○据付板の水平調節は4本のねじを仮締めした状態で行います。

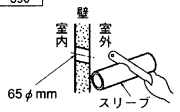


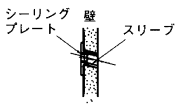
○基準穴を中心に回転し水平になるよう調節します。

⚠警告

・据え付けは、重量に十分に耐える所に確実に行って下さい。強度不足や取り付けが不完全な場合にはユニット落下によりケガの原因になります。

壁の穴孔け要領



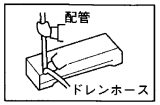


○室内から室外にむかって下り勾配（5°）をつけてください。

配管・ドレンホースの成形

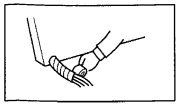
（後取り出しの場合）

○配管の成形



●配管の根元を押さえ向きを変えてから延ばし整形する。

○テープ巻き

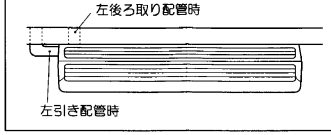
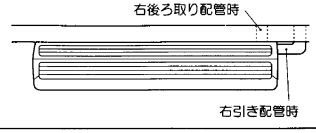


●壁穴を通す長さ分だけテープ巻きしてください。
●渡り配線は必ず配管とテーピングしてください。

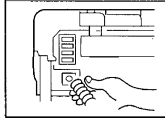
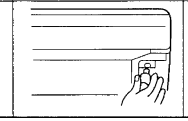
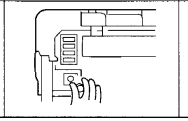
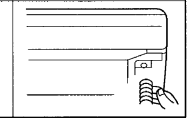
配管の整形後テープ巻きを行う前に接続電線が端子台にしっかり固定されていることを確認してください。

（左取り出し・後取り出し時の注意事項）

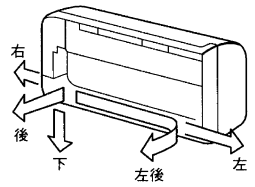
〈上から見たところ〉

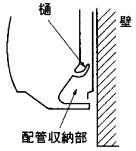
左引き配管時	右引き配管時
	

〈ドレンホース付替え作業手順〉

1.ドレンホースを外します。	2.ドレンキャップを外します。	3.ドレンキャップを差し込みます。	4.ドレンホースを接続します。
			
●バネ式クランプをゆるめて外してください。	●手または、ペンチ等で外してください。	●2.で外したドレンキャップを六角レンチ等をもちいて確実に差し込んでください。 注：確実に差し込まれていないと水漏れの原因になりますのでご注意ください。	●バネ式クランプをゆるめてドレンホースを確実に差し込んでください。 注：確実に差し込まれていないと水漏れの原因になりますのでご注意ください。

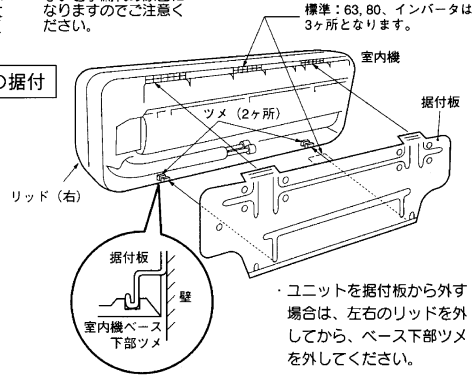
配管は、後、左、左後、右、下から取り出せます。





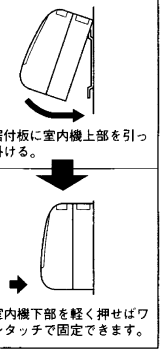
このエアコンは背面についた露をドレンパンに集めて排水する構造になっていますので、樋より上方に電源コード等を収納しないでください。

ユニットの据付



・ユニットを据付板から外す場合は、左右のリッドを外してから、ベース下部ツメを外してください。

据付作業手順



冷媒配管

お願い　フレアナットおよびフランジ部ボルトの締付トルクは下記によってください。

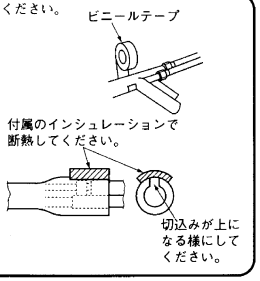
フレアナット締付トルク

- φ 6.35：14～18(N・m)、(1.4～1.8kg・m)
- φ 9.52：34～42(N・m)、(3.4～4.2kg・m)
- φ15.88：68～82(N・m)、(6.8～8.2kg・m)

ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

※液側配管は断熱しないと結露し水もれします。

- ●ユニットの配管端部のフレアナットは必ず2丁スパナで取り外し配管接続は2丁スパナでしっかりと締め付けてください。
- ●フレアナット接続時は、フレア背面部に冷凍機油を塗り、最初は3回～4回手回しでネジ込んでください。
- ●配管は下記材質のものをご使用ください。なお別売配管セットを使用されると便利です。　（材質）リン脱酸銅継目無銅管（C1220T、JIS　H3300）
- ●室内ユニットの断熱材で接続部を覆い、付属のインシュレーションで切込み部を断熱してからテーピングしてください。



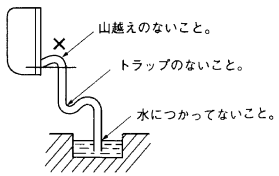
ドレン配管

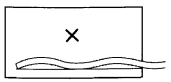
お願い　○ドレン配管は**ドレン水が流れやすいように下り勾配にし**、配管途中に**トラップをつくったり山越え配管をしないよう**にしてください。（左、右、後、下方向に取出し可能）
室内に施工の硬質塩ビパイプ（VP-16）は保温してください。

○熱交換器の下のドレンパンに水を注ぎ室外へ排水されることを確認して下さい。

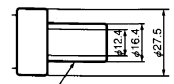
（前面パネルの取付け取外しについては裏面「電気配管工事」の「配線取付け」を参照ください。）

⚠注意　確実に工事し、排水の確認をしてください。水漏れの原因になる恐れがあります。





ドレンホース先端図



硬質塩ビパイプ一般管VP－16が接続可能です。

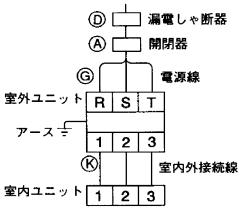
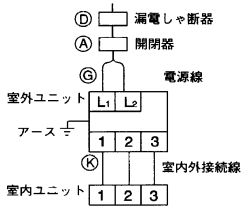
電気配線工事

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規定に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

Ⓐ 電源・室内外接続線

お願い
室内外接続線は3心ケーブルを使用してください。

①本機はヒータレス専用です。ヒータは取り付けられませんのでご注意ください。
②本機はブルーラル接続等の複数台接続はできません。
③室内外接続線は極性がありますので、必ず同一端子台番号間を接続してください。
④室内電源取り及び室内外別電源取りはできません。

3 相 機	単 相 機
	

開閉器・配線仕様

注（1）配線こう長は、電圧降下2%とした場合を示します。表示の配線こう長を越える場合は、内線規定により配線太さを見直してください。
但し配線こう長は50mです。
（2）室内外接続線 Ⓚ は総長70mまでとしてください。

〈標準機〉

室外機		漏電しゃ断器（A）	開閉器（A）	配線太さφmm又はmm²（配線こう長）注（1）		アース線	
		Ⓓ	Ⓐ	Ⓖ	Ⓚ 注(2)	太さ φmm又はmm²	ねじ
単相	40	20A 30mA,0.1秒以下	30	φ2.0（27）	φ1.6	φ1.6	M5
	45		30	φ2.0（23）	φ1.6	φ1.6	M5
	50		30	φ2.0（21）	φ1.6	φ1.6	M5
	56	30A 30mA,0.1秒以下	30	5.5（29）	φ1.6	φ1.6	M5
三相	40	15A 30mA,0.1秒以下	30	φ1.6（27）	φ1.6	φ1.6	M5
	45		30	φ1.6（22）	φ1.6	φ1.6	M5
	50		30	φ1.6（20）	φ1.6	φ1.6	M5
	56	20A 30mA,0.1秒以下	30	φ1.6（17）	φ1.6	φ1.6	M5
	63		30	φ2.0（25）	φ1.6	φ1.6	M5
	80	30A 30mA,0.1秒以下	30	5.5（31）	φ1.6	φ1.6	M5

〈インバータ機〉

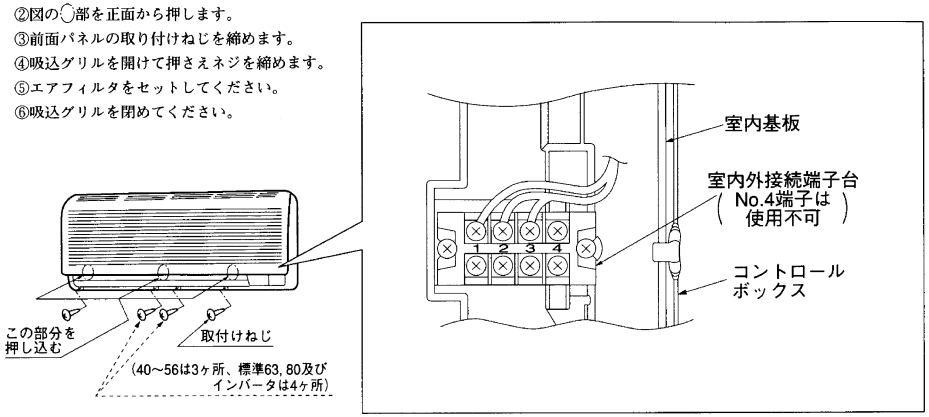
室外機		漏電しゃ断器（A）	開閉器（A）	配線太さφmm又はmm²（配線こう長）注（1）		アース線	
		Ⓓ	Ⓐ	Ⓖ	Ⓚ 注(2)	太さ φmm又はmm²	ねじ
単相	50	30A 30mA,0.1秒以下	30	φ2.0（14）	φ1.6	φ1.6	M5
	56		30	φ2.0（14）	φ1.6	φ1.6	M5
三相	50	30A 30mA,0.1秒以下	30	φ2.0（22）	φ1.6	φ1.6	M5
	56		30	φ2.0（22）	φ1.6	φ1.6	M5
	63		30	φ2.0（19）	φ1.6	φ1.6	M5
	80		30	5.5（30）	φ1.6	φ1.6	M5

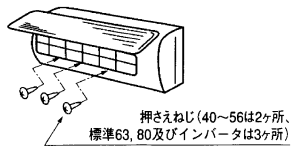
配線の取り付け

①前面パネルを取り外します。
②コントロールボックスの端子台に、室内外接続線を取り付けます。
③前面パネルを取り付けます。
（注意）
・前面パネルの取り付け、取り外しは、下図を参照ください。
・配線を端子台に取り付けるときは、端子番号を確認してから取り付けてください。

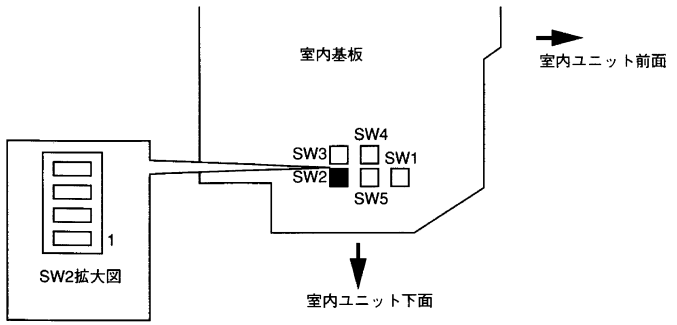
●パネル取り外し順序
①吸込グリルを開けます。（吸込グリル下部両端を引き、ラッチを外してから手応えのある所まで引き上げてください。吸込グリルは60°位開いた所で止まります。）
②エアフィルタを取り外してください。
③40～56は2ヶ所、標準63, 80及びインバータは3ヶ所の押さえねじを外してください。
④吸込グリルを閉めます。（吸込グリル下部両端を持ち、下方向にゆっくり下げラッチが掛かる程度に軽く押し、更に中央部を軽く押してください。）
⑤前面パネルの取り付けねじを外してください。（40～56は3ヶ所、標準63, 80及びインバータは4ヶ所）
⑥前面パネル下部を手前に浮かし、上部を押しを上げる様にして外してください。

●パネル取り付け順序
①前面パネルを本体に被せます。
②図の◠部を正面から押します。
③前面パネルの取り付けねじを締めます。
④吸込グリルを開けて押さえネジを締めます。
⑤エアフィルタをセットしてください。
⑥吸込グリルを閉めてください。





●混信防止用切換スイッチ位置（室内基板をコントロールボックスから取り出して設定を変更してください。）



Ⓑ リモコン

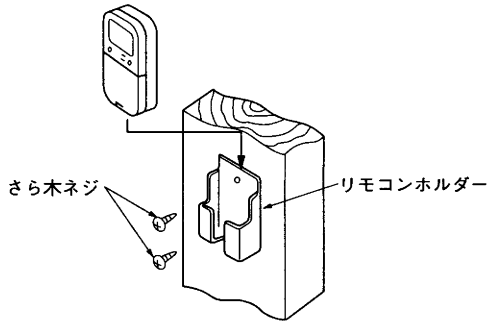
ワイヤレスリモコン（リモコンホルダー）の据付

お願い　次の位置は避けてください

1）直射日光の当たる場所
2）発熱器具の近く
3）湿気の多い所・水の掛る所
4）取付面に凸凹がある所

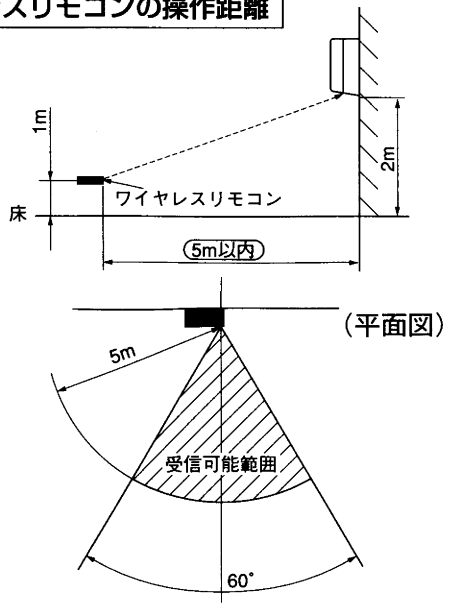
ホルダー取り付け時の注意

・垂直になる様、調整してください。
・ネジ頭が出ない様にしてください。
・土壁等へは取り付けないでください。



ワイヤレスリモコンの操作距離

ワイヤレスリモコンの操作距離



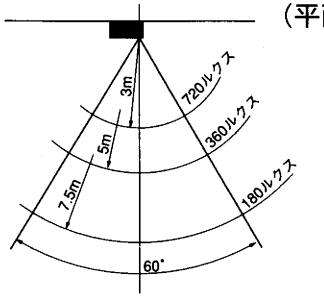
【条件】　吸込グリル面照度　800ルクス

目安：一般事務所でパッケージ周辺1m以内の天井面照明がない設置例
（この場合、机上照度役1000ルクス）

ポイント：（上記条件）
1.受信角度　60°
2.受信距離　5m

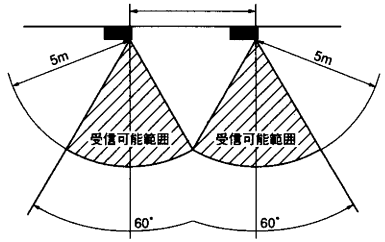
○リモコンスイッチを正しくエアコンの受信部に向けて操作してください。
○操作距離は上図の通りですが条件により異なり（増減）ます。
○受信部に直射日光・照明等の強い光が当たっている場合は、操作距離が短くなったり、受信しなくなる場合があります。

受信部照度と受信距離の関係



【照明と受信距離の関係】
目安：照明が半減すれば、受信距離は1.5倍となる。

複数台近接設置の注意



【条件】　吸込グリル面照度　800ルクス

目安：一般事務所でパッケージ周辺1m以内の天井面照明がない設置例（この場合、机上照度役1000ルクス）

ポイント：（左記条件）
1.受信角度　60°
2.受信距離　5m

【複数台近接設置】
右記条件にて同一リモコン使用時の同一動作を防止できる最小距離は5mです。
（受信部照度、部屋壁面の反射状態により変化する。）

混信による誤動作を防ぐ方法
（送受信モード変更）
(1) リモコン設定変更
(2) 室内コントロールプリント基板変更

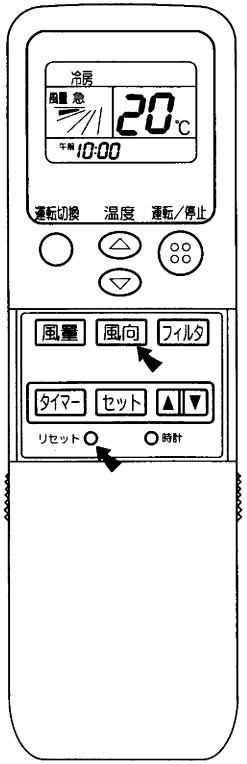
混信による誤動作を防ぐ方法 (1) (2) 両方を実施

(1) ワイヤレスリモコンの設定変更

風向 ボタンを押しながらリセットボタンを押すか電池投入をすると設定が混信防止設定へ切り換わります。

（※一度電池を取り外すと初期設定（工場出荷時設定）へ戻ります、電池を取り外した時は、再度、上記操作を行ってください。）

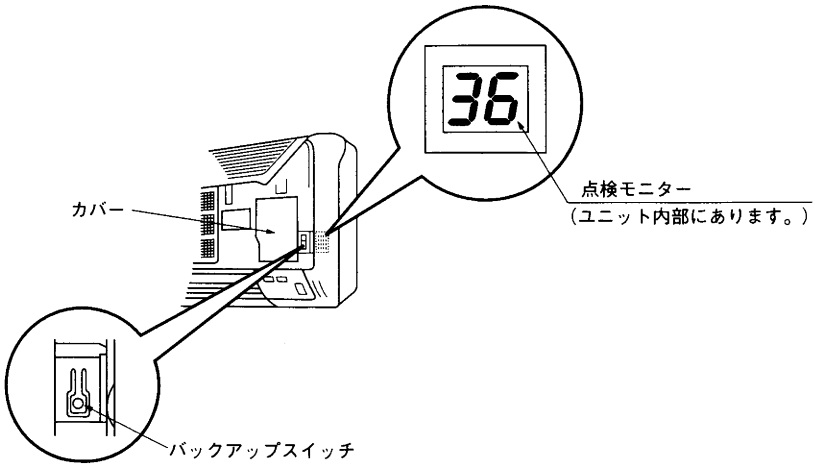
上記操作方法を必ずお客様に説明してください。
（操作方法は取扱説明書にも記載してあります。）



(2) 室内基板変更

室内基板上のSW2-1を、ONにしてください。
スイッチの位置は 配線の取り付け の混信防止用切換スイッチ位置を参照してください。

Ⓒ 冷房試運転操作



① 吸込グリルを開けます。
② ユニットの右側に左図に示す様な、バックアップスイッチ及び、点検モニターがあります。
（但し、点検モニターは、ユニット内部にあるため、カバーを開けてください。バックアップスイッチの裏側にあります。）
③ バックアップスイッチを押しながら、ワイヤレスリモコンにて冷房運転を送信してください。冷房試運転を開始します。
④ 停止させるには、もう一度バックアップスイッチを押すか、ワイヤレスリモコンにて、停止ボタンを押してください。

●試運転時、正常に動作しない場合は、室内・外ユニットに貼付けの点検表示を参照し、点検してください。